

Minna no Nihongo

みんなの日本語
初級Ⅰ 第2版



教え方の手引き

CD-ROM
付

スリーエーネットワーク

みんなの日本語

初級Ⅰ 第2版

Minna no Nihongo

教え方の手引き

©2000 by 3A Corporation

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

Published by 3A Corporation.

Trusty Kojimachi Bldg., 2F, 4, Kojimachi 3-Chome, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083, Japan

ISBN978-4-88319-734-7 C0081

First published 2000

Second Edition 2016

Printed in Japan

まえがき

『みんなの日本語 初級』は『新日本語の基礎』の姉妹版として1998年に発行以来、初級段階の教科書として、整備された内容と学習効率の良さで、「教えやすく」「学びやすい」と指導者、学習者から評価をいただいてまいりました。

小社は今日まで、各方面の日本語教育・研修現場や学習者からのご意見を大切にし、教材制作に反映させてまいりましたが、近年ますます多様化する学習者や外国人の滞日条件の変化などを背景に、『みんなの日本語 初級』を見直し、内容を一部改訂し、『みんなの日本語 初級 第2版』を出版しました。

改訂の柱は会話の場面と語彙で、国内外の学習者の日本語学習目的の広がりや交流の深まりにも対応しやすいように配慮しました。

本書『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 教え方の手引き』は、初版同様、『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』を用いる新人教師のための手引きとして制作したのですが、教師経験の有無にかかわらず、日本語を効果的に教えるために、参考にしていただきたいと思います。

「教科書」を教えるのではなく、「教科書」で教えるための工夫は、常に教師に求められるところだと思いますが、本書を通して、『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』の意図するところをご理解いただければ幸いです。

教科書『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』とその指導書である本書、また周辺教材の出版に際しましても、多くの学習者や指導に当たってこられた先生方のご意見、ご感想をいただくなどたくさんのご協力をいただきました。

小社は、これからも日本語教育の現場から求められる新たな教材、日本語教育に携わる皆様のお役に立つ教材を開発してまいります。

今後とも一層のご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2016年3月1日

株式会社スリーエーネットワーク

代表取締役社長 藤 嵩 政子

目次

第1部 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』について

1. 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』教材の構成と内容2
2. 授業の進め方2
3. 復習のしかた8
4. 用語10

第2部 各課の教え方

- はじめに14
- 第1課～第25課19

付属CD-ROM

1 収録内容 (PDF ファイル)

1. 学習項目と提出語彙

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説』に掲載されている文法項目 (パートⅣ)、語彙・表現 (パートⅠ) を課ごとに整理

2. 助詞

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 本冊』で学ぶ助詞の一覧

3. 動詞の活用表

動詞のグループ分けの表、「て形、ない形、辞書形、た形、普通形」の作り方の表

4. 形容詞

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 本冊』で学ぶ形容詞 (い形容詞、な形容詞) の一覧

イラスト

練習C・会話イラストシート：練習Cや会話の練習の際、場面や状況を視覚的に提示するのに有用なシート

『教え方の手引き』で使用するイラスト：本書で紹介している導入・練習に使用できるイラスト

登場人物：導入や練習などに使用できる登場人物のイラスト

2 動作環境

このCD-ROMは以下の環境にて、動作を確認しております。

- ・CD-ROMが使用できるドライブを搭載または接続したパソコン
- ・OS Microsoft® Windows® 7・8・10, Mac OS X 10.9
- ・PDF閲覧ソフト Adobe Acrobat Reader DC

収録したデータを開覧するには、CPUおよびメモリが、お使いのOSとPDF閲覧ソフトの動作環境を満たしている必要があります。また、デー

タを印刷するには、お使いのOSに対応したプリンタが必要です。
お使いのパソコンにPDF閲覧ソフトがインストールされていない場合は、
Adobe社のホームページ (<http://www.adobe.com/jp/>) より、最新の
Adobe Acrobat Readerをダウンロードし、インストールすることにより、
閲覧が可能になります。

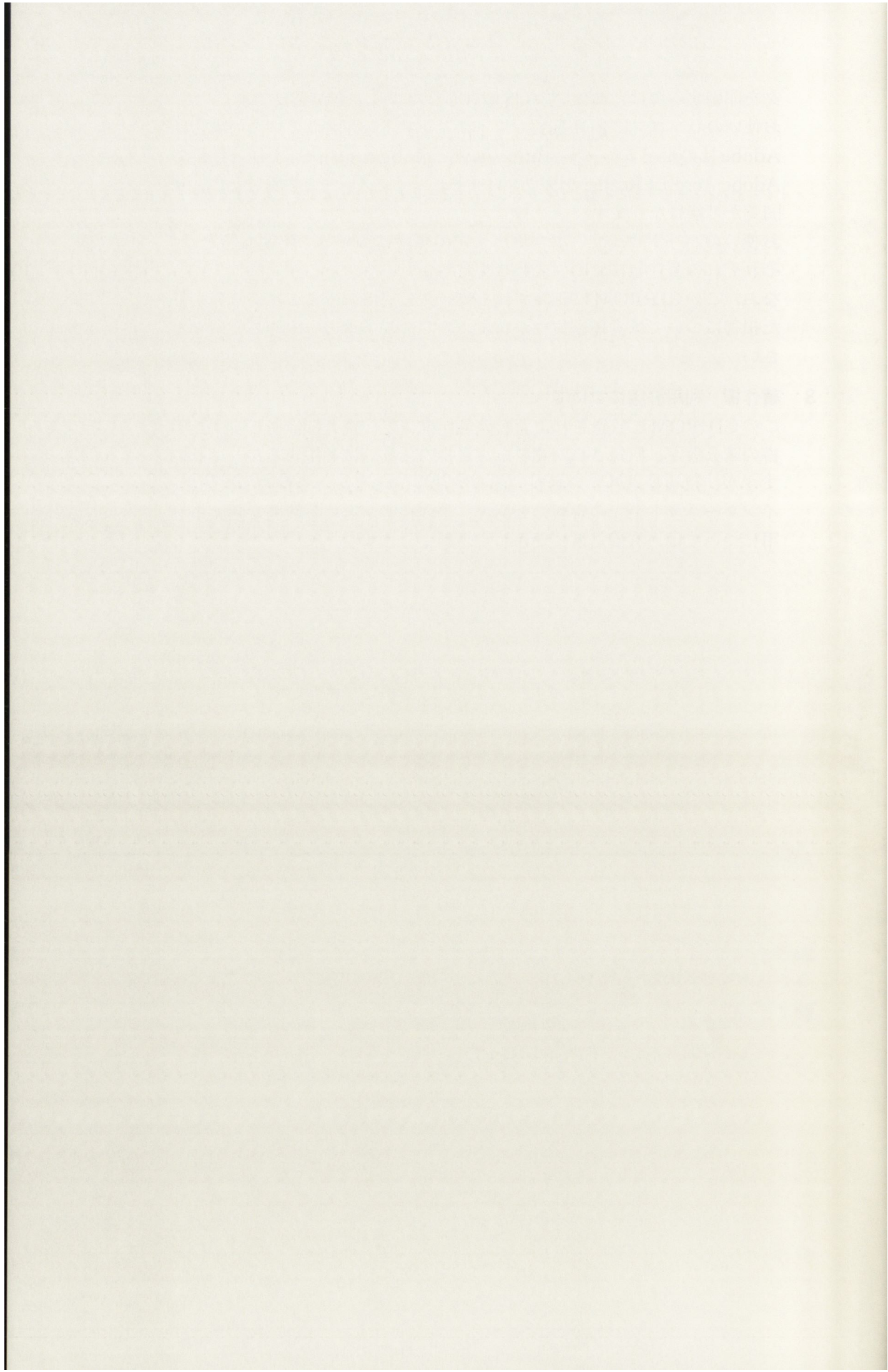
お使いのハードウェア、ソフトウェアの環境についてご不明な場合は、
それぞれの製造元にお問い合わせください。

なお、このCD-ROMに収録されたデータを使用することにより発生し
た損害については責任を負いかねますので、ご了承のうえ、ご使用く
ださい。

3 著作権・利用許諾について

このCD-ROMに収録された資料の著作権は著作権者に帰属します。本
書の購入者が、収録された資料をご自身の授業等に利用することは認め
ますが、授業等以外での資料の配布や使用、改変した資料の二次使用、
インターネット上での資料の公開等、著作権者が認める範囲を超える利
用については、有償無償にかかわらず禁止します。

.....



第 1 部

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』について

1. 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』教材の構成と内容

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』の基本となる教材は『本冊』と『翻訳・文法解説』である。本書『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 教え方の手引き』を使用する上で、『本冊』と『翻訳・文法解説』の構成と内容の把握が必須である。以下に教材の構成と内容をまとめておく。

1) 『本冊』(各課8ページ)

文型・例文

文型 その課の表札にあたる。

できるだけ主語・述語の完結している形で提出し、文の基本形を示す。

例文 「文型」を質問と答えの形にして実際の発話例を示す。

文型以外の学習項目も含む。

会話 課全体を学習したあと、「できるようになること」の一つとして、具体的な場面(職場・家庭・地域の交流場面での日常的な話題)を持つ「会話」を提示。

練習ABC

A 文法理解を助けるレイアウトによって文型・活用の形などを視覚的に提示。

B 文構造の定着のためのさまざまなドリル形式による練習。イラストを多用。

C 文型の機能を生かした談話単位の練習。

問題 学習したことの理解確認練習。

2) 『翻訳・文法解説』(各課6ページ)

語彙 『本冊』各課の新出語彙とその訳。訳は『本冊』で学ぶ範囲に限定。

*右肩に*がついている語は、その課には出てこないが、その課で学習してほしい語(対義語・関連語)である。

翻訳 『本冊』各課の「文型・例文」「会話」の翻訳。

参考語彙と情報 その課に関連した語彙や日本事情に関する情報。

文法解説 その課で学ぶ範囲の文法の説明。

2. 授業の進め方

授業は『本冊』p. ix「効果的な使い方」の「1課の学習の流れ」に沿って進める。

以下は第2部「各課の教え方」を見るうえでの全体的な解説にもなっている。

I. 新出語彙の導入

まず、その課の新出語彙を導入する。

授業の初めに『翻訳・文法解説』「I. 語彙」を一度に導入する。あるいは、学習項目ごとにそこで使う語彙のみを選んで導入するというやり方もある。

① 新出語を読む

『翻訳・文法解説』の「I. 語彙」のページを教師のあとについて声に出して読む。

- ・アクセントを意識して発音する。
- ・漢字圏の学習者は漢字の読みを発音に持ち込む傾向があるので、注意する。
- ・学習者は教師のあとについて発音しながら、語彙の右に書かれている訳を確認するという作業をしているので、教師は学習者の様子を見ながら、読む速さをコントロールする。

② 定着を図る

絵教材、実物などを使ってある程度（短期記憶でよい。教師が与える文やテキストの文に反応できる程度）覚えるまで繰り返す。

- ・第2部の「I. 新出語彙 導入の留意点」に書かれているポイントに注意して練習する。
- ・語彙訳に与えられている意味のみを練習する。ほかの意味は教えない。
- ・動詞の場合は、一緒に使う助詞（既習の範囲）をつけて練習する。その課で新たに導入する助詞は、語彙導入の際に扱わない。
- ・常に教師が絵教材を提示して繰り返させるのではなく、ペアやグループで教師と学生役を演じさせるなど教室活動を工夫する。

II. 学習項目の導入と練習

項目ごとに導入・練習を繰り返す。基本的に、導入、説明、練習は既習語彙・文型のみを用いて、直接法（学習者の母語や英語などを使わないで、日本語のみで教える方法）で行う。場面提示などで未習語彙が必要な場合は、絵教材やその語彙訳を準備するなどの手当てが必要である。

1) 見出し文、文の型と文法説明

「II. 学習項目の導入と練習」の各項目には、見出し文とその文の型が掲げられ、その下にその文型の文法説明が記してあるが、これは教師向けであり、学習者にそのまま伝えるものではない。

2) 導入

導入 は、教師が導入を考える際のヒントを記し、その具体例は導入例で示している。学習者によってさまざまな導入が考えられるし、何が適切であるかは学習者によるので、**導入**、導入例をヒントとしてその場の学習者に合った導入を試みてほしい。導入例は2～3準備しておいたほうがよい。

導入例を考えるにあたっては次のことに注意する。

- ・価値観（宗教、モラル、歴史観）は、個人や文化によって異なり、多様であることを心に留めておく。
- ・日本事情に関することを扱う場合は資料を準備しておく。
- ・学習者の個人的なことを例として取り上げるのは避ける。

既習語彙・文型による説明に加え、ジェスチャーや絵教材など、あらゆる方法を使っても、その学習項目の意味用法を伝えきれず、漠然とした理解にしか至らない場合がある。その場合は次のような文字カードを作成し、利用するとよい。